



安善寺開山堂・位牌堂

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052

長岡市神田町1丁目4番地10

TEL.(0258) 32-2811

◆スタッフ◆

安藤一夫 小林国二 小林善秋 高橋潔
佐藤正樹 近藤マリ子 近藤善信

印刷・(株)北越時報社

ご家族の皆様でご覧ください

竹に学ぶ

翠巖 龍弘

今年の夏は、まさに酷暑で、早朝からクーラーフル回転の日が続きました。そんな暑さの中でも、風鈴の音色や、竹の葉の揺らぐ風情は、涼しい感じを私どもに与えてくれます。

私の子供のころには、安善寺に竹はなく、先代住職がどうしても竹林が欲しいと、知り合いのお寺から竹を貰い、境内地の隅に植え、翌年には二本の筍が出ましたが、折られてしまったため枯れてしまいました。残念がった先代は、今度は目の届く庫裡の近くに植えたのですが、またしても枯れてしまいました。どうしても境内に生えた筍が食べたいと、庭師

に頼んで植えてもらったのが、ようやく根付き、増え始めて二十五年になります。筍を見ると春先に頭を数えていた嬉しそうな先代の顔が思い出されます。

寺の境内には樺の大木が多く、秋には落葉の始末に困り果て、竹藪に捨てることにしました。腐葉土として最高なことで、運ぶのも楽なので一石二鳥と考えたわけです。何年か後には、竹林全体が盛り上がるようになり、毎年、筍の数も増え続けたのですが、数年前に失敗に気がきました。

竹は地下茎が張り巡り、地震時は竹林に逃げると良いと教えられたり、また、強風や積雪にも節があるため、横に傾いても折れずに元に戻す力がありますが、寺の竹は、強風に根から倒れたり、雪の重みに傾いたら最後に根から倒れてしまうのです。

それは、堅い大地の上に樺の葉が腐葉土となり、柔らかい栄養豊かな床が出来たため、地下茎が浅い所に張ったためであります。竹も安きに流れ、無理して堅い大地に

地下茎を張らなくても、楽々栄養を取ることが出来たからでしょう。

そんな折り、人間も同じではないだろうかと考えさせられました。温室育ちであったり、人生楽な方へ楽な方へと生きていると、ちよつとしたアクシデントに対応できなかつたり、挫折しがちではないでしょうか。獅子は子を深い谷に落として、自らの生きる力を教えると言われており、人間世界でも、昔から「可愛い子には旅をさせよ」との教訓があります。

しかし、最近の日本では逆に、厳しさや我慢を教えられないで育った若者が増えているようです。

人生、色々失敗したり、辛いこと、悲しいことなど多々あります。しかし、その一つひとつを竹の節のように、人生の節目としてしっかりおさえて、安きに流さず生活してゆく努力をするならば、必ずや今後の人生を間違つことなく、包容力のある、重厚で奥深い人間として生きることが出来るのではないのでしょうか。

「縁なき衆生は度し難し」……「度する」は、迷いの此岸から悟りの彼岸に渡すこと。縁があってはじめて人を救うことができる。縁のない人は、たとえお釈迦さまでも救いようがない。

教育で人が変わる 教誨活動

新津市 五十嵐紀典

頭の天辺から足の指先まで、お洒落に気を使う。顔が黒かったり、逆に白すぎたり。爪が紫だったり、赤かったり……。男性がお化粧に時間がかかる。まさに、平成元禄で浮かれすぎていると思っていたら、十七才を中心とした少年の凶悪、残忍な犯罪が続き、日本社会を震撼させています。

このように、罪を犯した者の多くは、刑務所や少年院などに収容されることになる。新潟県内にある犯罪者の収容施設の主なものとして、新潟市山二ツにある「新潟刑務所」と、長岡市御山町の「新潟少年院」の二施設があります。

新潟刑務所には、七百人くらいの人が収容されており、(こ)も(こ)多分にもれず、高齢者の入所増加による高齢化とともに、中国、韓国、フィリピン、イランなど、

少しだけ日本語の分かる外国人の入所による国際化も目立ち、日本社会の縮図のようであります。

また、新潟少年学院は、

す。窃盗、恐喝、強盗、強姦、傷害など、重大事件を犯した人達もいます。定員六十六名のところ、七十九名収容されている。(平成十二年



少年でも、十八、九才の成人に近い者で、初めてこのような所に入る初犯の者が多く、東京・水戸・宇都宮・前橋・長野・地元新潟の家庭裁判所から送られてきま

八月現在)

これらの施設

において、宗教者の立場から、

①自己確立のための教化

②社会適応のための教化

③法律遵守のための教化

を指して、活動している人が教誨師と呼ばれる人たちであり、

県内では、二十三名の方々がおられる。

浄土真宗、真言宗、法華宗、キリスト教、天理教、その他各宗派から参加され、

曹洞宗は五名で、私もその中の一人で、安善寺の龍弘

方丈様も曹洞宗の教誨師という立場で、新潟少年学院で坐禅(少年学院では、瞑想教室と言っている)指導と、講話に通っておられます。

次に、R・Hという少年

学院生の文を紹介いたします。

「私は、先生の講話を聞き、人生において失敗した自分にも希望が大きいに持てるのだなと感じました。——中略——人生をかえるのは自分でしかできない事かもしれないが、先生はヒントやキッカケを自分達にあえて

てくれているんだなと思っています。このヒントやキッカケを生かして少年院生活をおくり、自分自身でしっかり自分をかえます。」

と書いています。

学院の教官の話によると、入所当初は心身ともに荒んでいて少年たちが、一日一日見違えるように、自分を取り戻してゆくそうである。



また、Y・Tという院生は、「今日のお話の中で、特に心に残ったことは、苦労することについての話です。自分も自分でまいた種ですが、心の中に多くの悩み事を抱えています。——中略——非行を犯し続けてきて、普通一般の人とはだいぶ差がついてしまい、マイナスな人生を歩んできましたが、先生のおっしゃられる通り、少年院での生活を肥やしにして、這い上がっていきます。」

窃盗、恐喝、強盗、強姦、傷害、傷害致死と、非行名からするとひどくて、どうにもならないと感じられるかも知れませんが、新潟少年学院の出院生の再犯者は少なく、教育により人は変わるということであり、教誨活動の大切なお話であります。

「地獄極楽裏表」……地獄と極楽は遠くかけ離れているように思えるが、実は一枚の硬貨の裏表のようなものである。地獄も極楽もつまりは人間のこころにある。

良寛さん つれづれ

長岡良寛の会幹事 築井 仁



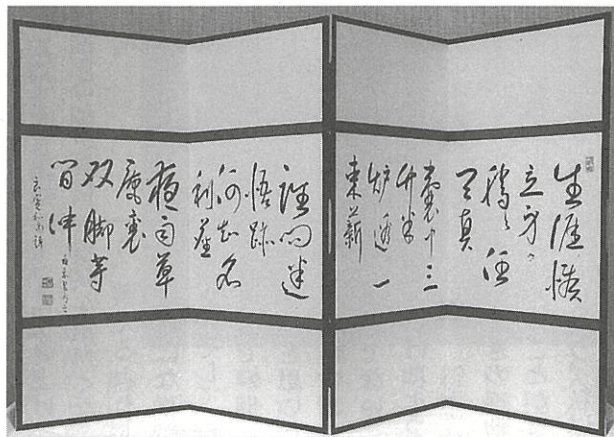
長岡良寛の会は六月、良寛さんの百七十回忌に際し、一人でも多くの人と良寛さんのお心との深い交流（感応道交）を図ることが何よりの供養と考え、良寛敬慕展を行いました。

会員だった森市長からは祝電をいただき、出品は百五十余、入場は千五百人超の大成功でした。

写真は、安善寺様のご出品です。良寛さんの詩を総持寺の副貫主をされた故余語翠巖老師がお書きのもの

で、ご住職が総持寺で修行のご縁でいただいた寺のお宝です。

この詩は、良寛さんのお心を最もよく表していると言われるものです。



たれかとわんめいこのあ
と、いずくんぞしらんみよ
うりのちり、やうそうあん
のうち、そうきやくとうか
んにのぶる。

訳は「偉くなるなど面倒

生涯懶立身 騰々任天真
曩中三升米 炉辺一束薪
誰問迷悟跡 何知名利塵
夜雨草庵裏 双脚等間伸

しようがいみをたつるにも
のうく、とうとうとしてて
んじんにゆだねる、のうち
ゆうさんじょうのこめ、
ろへんいつそくのたきぎ、

くさく たただだすべては
御仏任せ 袋にや三升のお
米はあるし 囲炉裏にや薪
も十分あるよ 迷い悟りの
面倒な論議 とうの昔にお
忘れ致し 名誉やお金も御
仏様に 任せたこの身にや
塵より軽い 雨露しのいで
ゴロリとできる 草の庵も
恵まれました ああ有り難や

ライオンズ野球大会優勝

高橋哲朗

ぼく達、宮内ファイターズは、八月二日と八月八日の間行われたライオンズ大会で見事優勝しました。一回戦からどんだん勝ち進み、波にのって優勝しました。ここでは準決勝と決勝のようすをしようかいたします。



準決勝では希望と対戦し、初回に先せい点をあげました。ところが逆転されました。最後の最後まで試合の行方はわかりませんでした。しかし、最終回に決勝点をあげて決勝へ進みました。この試合は、本当にどうなるかと思いました。

決勝戦では、柿小と対戦し、一回、三回、五回と一点ずつ得点して、五回まで三点をリードしました。ところが、六回ピッチャーの五十嵐くんがくずれ、三点をうばわれ同点とされてしまいました。ムードは相手にい

ました。ムードは相手にいき、今までの自分たちのムードが六回でいつきにふっ飛んでしまいました。

でも、あきらめずに一生けん命戦いました。そして七回、決勝点となる一点を取り、その裏の相手のこうげきをピシヤリとおさえ、今まではたせなかつた優勝を勝ち取りました。

四対三、見ている人にと

つては、接戦でもしろかつたかもしれないが、自分にとっては何となくのいく結果ではありませんが、それでも、優勝というチームの目標を達成できたことが自分にとって、とてもうれしいです。

こうして優勝できたのは、かんとくやコーチ、そして五年生や四年生、保護者の方々の応援があつたからだと思います。ぼくは、この優勝は、六年生だけでなく、宮内ファイターズに係しているすべての人で勝ちとつた物だと思えます。

ぼく達を応援してくださつた方々、本当にありがとうございました。小学校生活最後の夏休みにふさわしい、とてもすばらしい思い出になりました。

それから、お盆でお寺にお参りにいったとき、決勝戦をみていた和尚さまから「よかつたね」といわれました。うれしかったです。ありがとうございました。

「人を見て法を説け」……お釈迦さまが人々を導く方法は「待機説法」でした。自分が導く相手の性格や能力（機根）に合わせて、わかりやすいように説法しました。

読者からの便り

今号もたくさんのお投稿をいただきました。所定の原稿用紙を使わず、別紙で送ってくださる方もいらして、恐縮する思いです。



●総持寺僧堂での感激

長岡市 高橋ふさ子

今から十数年前のことです。「今日はおばあちゃんのお参りしよ」と、お寺に伺いました。

上がろうとすると、何となく違う静けさを感じ、「おやつ？」と戸を開けました。「あつ、人が居られる、入ると悪いのでは……。ああ、これが坐禅というものか。背中を向けて座っていらっしやる姿は、今まで感じたことのない張りつめた空気と静けさ。その中にも不思議な安らぎを覚え、私もいつのまにか、入口に正座してしまいました。

から一年半ほど坐禅の日に坐るようにになりました。

そのころ私はひざが痛くて、結跏趺坐どころか半跏趺坐もできずに、足を投げ出していましたが、回を重ねるごとに、坐ることが楽しくなりました。

昭和六十四年、主人が脳梗塞で倒れましたが、坐禅で教えていただいたことを心に刻み、看護に専念することができました。

その後、坐禅の話を知りたり、テレビや写真などで見るにつけ、あの不思議な感激に浸ることができた体験に改めて感謝しております。

このたび総持寺様へお参りさせていただき、行事の後に寺内を案内していただきました。そのとき、「ここから先は修行僧の宿舎で行かれません。この僧堂は坐禅をするところです」とお聞きしました。坐布が置いてあ

り、中央には文殊様のお像があり、天井は高く、厳かなまでの静けさでした。磨きだされた柱や縁澁を見て、修行僧の心こもったお手入れに、自然と手を合わせてしまいました。「ああ、正座でよいか

らここに坐ってみたい」と思ったとき、耳がツーンと引き上げられ、体が熱くなり、震えるような気持ちになりました。そして、安善寺様での坐禅の体験を思いだし、一瞬いままでの私でない

私をみつけたような思いでした。

あのときの感動は、二度と味わうことができないことでしょう。私は生まれ変わらせてもらったような気持ちになりました。

総持寺様での感激を家に持ち帰り、仏壇の前に座りました。何と言ったらよいのでしょうか、切ないものが胸の中からこみあげ、身の



引き締まる思いでお経をあげる事ができました。主人が亡くなつとき、「お経は何をあげたらよいのでしょうか」と方丈様に教わり、経典をほとんど一冊、朝夕に分けて読ませて

もらっていました。「普勸坐禅儀も読むとよいですよ」とおっしゃられたのに、省略しておりました。

このときとばかりに開きました。口が回らず読めないのです。「安善寺道場ではあんなにすら楽しく読めたのに」と反省いたしました。「毎日の行を怠るとこんなになるものか」と、退化する淋しさをつくづく

思い知らされ、今では毎夕坐禅をする気持ちで、僧堂での感激を忘れないよう、お経をあげております。

●彼岸会随想

長岡市 酒井美与吉

新年とお盆には欠かさずお寺に参詣しますが、今年三月、久しぶりに彼岸の彼岸会に参会して、新鮮な感動を覚えました。

読経が始まり、導師の聲が堂内に響き、「一切皆空、空中無所得」と説く般若心経の教えが心に染みます。会衆は導師に従い『南無三世諸仏』を唱和、善男女の真心の声でした。

続いて、泰山正樹師の法話。「彼岸とは来世を意味するのではなく、現世の迷いや悩みを超越した『悟りの境地』を意味するのです。故に、人は現世にいても、修行によって彼岸に到達できるのです。修行の一つである布施には、財、法、無畏施、顔施、和顔施、言施、身施などがあります。要約すれば、寛い愛の心で人に喜びを与え、自他ともに幸福になる

ことです」。彼岸の中日の法会に参会しました。法要の後、方丈龍弘師の法話。「彼岸は生きているものが生きていることに感謝し、修行に努める一週間です。波羅蜜多はサンスクリット語で『到彼岸』の意味で、迷いの世界である『彼岸』から、悟りの境地たる彼岸に到ることを意味します。

そのための修行には、布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧があり、これらを六波羅蜜と呼び、煩惱の河を渡る六艘の舟に譬えられます。人間が現世の煩惱を離脱し、心安らかな彼岸に到達するためには、もちろん修行が必要で、人間の弱点たる貪・瞋・痴を抑制し、妬み・恨み・憎しみを斥け、皆が菩薩になるよう努めよう。

彼岸の法会は日本にだけ伝わる美しい伝統です。私たちは、この時、生きている者としての自覚、亡き人々への感謝、生きとし生ける者(物)の平安を願い、それを実践して、世界平和と人類協和の理想を目指して精進しましょう」。

「三人寄れば文殊の智慧」……文殊菩薩はお釈迦さまの脇侍をつとめる智慧の菩薩。たとえ凡人であっても三人集まって相談すれば、なんとかいい智慧がでてくるという意味。

「三人寄れば文殊の智慧」……文殊菩薩はお釈迦さまの脇侍をつとめる智慧の菩薩。たとえ凡人であっても三人集まって相談すれば、なんとかいい智慧がでてくるという意味。

彼岸の法会に参会し、法話を拝聴して、仕事や日常の雑事に追われて、宗教への関心が薄れていることに気づきました。

仏教はインドで生まれ、アジア全体に広がり、各民族の思想、信仰、文化に強い影響を与えながら、六世紀初めにわが国に伝来しました。

そこに古くからあつた神道と調和して発展しました。禅宗は十一世紀に伝来し、十三世紀に全国に流布したと聞いています。

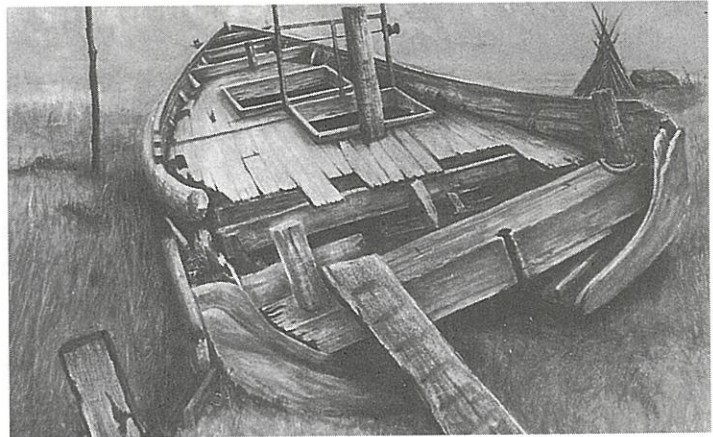
この二十世紀は、当初から大規模な戦争の連続で、日本もその渦中に巻き込まれて半世紀を過しました。

いま我が国民が平和を享受できるのは、大多数の国民が仏教なればこそと痛感し、その信仰を支え、心の拠り所たるお寺の存在に感謝し、その護持に努めたいと思います。

●北緯四五度で見た廃船

北海道紋別市 須藤秀雄

内地は三十数度というのに、当地は十七度の日が続き、夜はストロブが欲しいほ



あるものはいずれ土に還える「無機への刻」です。北海道は開拓百数十年で、苦闘して手に入れた小船も小屋も年とともに朽ちてゆく。新生から活働期、そして終焉までの生きてきた証としての表現で、廃船、廃屋を描いています。

護岸工事で廃船は粗大ゴミと

どですが季節はやはり夏で、原生花園には蝦夷スカシユリやハマナスが咲き、夏のオホーツク本番です。

この度の季刊誌「蔵王山安善寺」にエッセイやカットまで掲載していただき、兄弟や子供たちにコピーして送りました。二年ほど前に、次弟が車椅子になつたので、なおさら感慨深いものがあり、ありがとうございます。私の絵のテーマは、形の

日本に来て感じたこと

中国留学生 呂 建效



台湾の高校の恩師に、高震東という先生がいます。

ある日、高先生が教室の床に落ちていた紙くずを見て、こんな話をしました。「皆さん、授業の前に、お話をします。何年前かにアジア運動大会は、日本の広島で行いました。毎日、たくさんの人々が選手たちを応援しました。新聞記者とテレビ記者がびっくりしたことがありました。何万人もの座席の床に紙くず一つ落ちていかなかったことです。皆さん、自分の席の床をよく見て、私の話を考えてください。これからどんな生き方をしたらいいのでしょうか。短くてかんたんな話ですが、私は感動しました。そして、日本という国に対して最初の印象を持ちました。それから何年か過ぎて今年の五月、小林国二さんの

おかげで、留学生として長岡にやってきました。初めて異なる国に来て、「文化ショック」を経験しました。日本に来て一週間のあと、父と母に手紙を送るため郵便局に行きました。道がよくわからないので、駅の近くに来たら迷ってしまいました。そこで年をとつたおばあさんに道を聞いたら、ていねいに教えてくれました。

私と従兄弟はいっしょに新潟大学まで遊びに行きました。新潟市に帰る人がいっぱいなので、車がすごく多く渋滞していました。日本の国道は上りと下りのふたつの車道があります。大部分の車が帰るのです。となりの車道はあまり車を見かけませんでした。こんな風景は今まで見たことがないのです。一〇キロを走るのに一時間もかかりました。

私は、おばあさんに教わった通りに歩き始めました。おばあさんは私に追いついて、「私もその辺に行きますから、いっしょにいきましょうね」と言ってくれました。いつのまにか長岡郵便局に着きました。私は世界の人々にこう言いたいのです。「日本語が少し通じれば、誰でも日本で道に迷うことは絶対ありません。」

こんな長い間、ひとりの警官もいませんでした。一台もとなりの車道に行きませんでした。クラクションを鳴らすこともありませんでした。みんな車の中で静かに、とめて移動して、止めて移動して、ルールを守り車の渋滞を解決しました。日本の製品は世界一流です。なぜ、日本の製品はこんなにいいのでしょうか。いろいろな解釈があります。でも、日本人の態度や繊細な性格に大きな関係があると思います。どんな技術も、どんなすばらしい製品も、よい人柄から生まれると思います。

「お盆の心」大切にしたいと思えます。よろしくお願ひします。

ワールドカップが二〇〇二年に新潟で行われます。この友好的で親切な国で、大会は成功するはずだと思います。

もうひとつのお話があります。お盆の最終日でした。

「果報は寝て待て」……善いことをすれば必ず善い結果（果報）がある。しかし善いことをしてもなかなか結果は得られない。だが、いつかは必ず果報は得られる。なにも焦ることはない。

米百俵の精神をカンボジアへ

長岡高校「孜孜の会」カンボジアへ学校を贈る

「孜孜の会」とは、長岡高校の昭和四十四年卒業同期の会のことです。小生も末席におりましたので、今回のプロジェクトに参加させられました。東京支部同窓会担当幹事を、本年我々の学年卒が請け負うことになり、記念行事として発案し、壮大な企画がスタートしました。担当学年の有志の協力や、先輩後輩、友人、親戚、隣人と趣旨に賛同戴いた方々からご寄付を賜り、着々と準備をしております。多額な寄



付のもと、有効な場所探しと階段は進行し、昨春秋にカンボジアに決定し、春には完成と、トントン拍子でこゝとは運びました。と、なると開校式はカンボジア！誰が行くのか？ 東京の幹事連から催促され、長岡幹事連の取りまとめで小生も行くことにさせられました。カンボジアは地雷原が多いので危険、(確かに外務省の情報では、行かない方がよい国の一つになっている)恐ろしい蚊がいて刺すと直ぐに死ぬ、ポルポト残党が銃を持って強盗となり、すぐ殺される、等々あまり良い情報はなかったのですが、四月五日から九日まで、不安と緊張でのカンボジア珍道中を敢行しました。しかし、聞くと

見るとでは大違い。エネルギーが豊富な街、孤児になって輝く瞳、若い人たちが溢れる繁華街、只々圧倒される。確かに貧困な経済状態、政治も不安定。この国は教育以外成長しないと確信する現状を目の当たりに見えてきました。

同期の孜孜の会会長であり、今回のツアーの団長である柳和久氏(長岡科学技術大学教授)に寄稿して戴きましたので拝読お願い申し上げます。(記 小林国二)

孜孜の会、カンボジアに

学校を贈る！

柳和久

「三十而立、四十不惑、五十知命……」はたして論語の生き方に近づくことができただであらうか。昔であれば人間の寿命とされた五十才に到達した。未だに不惑とも言い難い。



六人がカンボジアへ渡った。首都プノンペンから北東に車で二時間の片田舎にたどり着くと、数百人を越す大人と子供が待ち構えていた。五つの教室と什器、そしてソーラー発電設備は周囲の建物とは比べ物にならないほど立派であった。

開校式の席上で、人材育成の緊急性と重要性を幾度となく強調し、次世代の教育こそが最良の投資であることとを言い聞かせた。その実現には、長い年月を必要とするであろうが、長岡の地で育まれた米百俵精神は、必ずや人から人へと引き継がれていくに違いない。

この度のカンボジア訪問は、通り一遍の観光とは異なっており、庶民の日常生活をつぶさに見聞する機会に恵まれた。ところが、観れば観るほどカンボジア問題の深刻さは激しさを増すのであった。ポルポト政権の諸政策がカンボジア国民をいかに苦しめたか、そして国家としての機能を消失させてしまったかを肌で感じる旅となった。

縁あって孜孜の会(長岡高校 昭和四十四年三月卒同期会)が中心となつて、復興ままためカンボジア王国に学校を寄贈することになった。母校のいわれにちなんで「米百俵スクール」と命名した。今年の四月初旬、寄贈した小学校の開校式に出席するため、孜孜の会の幹事十

もはや近隣の東南アジア諸国に追いつくことは事実上不可能に近いのかも知れない。それほどまでにカンボジア王国の経済状態が悪化しているのである。

観光資源一辺倒の歪んだ経済活動と援助に慣れきつた国民の大多数が、どのように再生したらよいか、解決策はなかなか見えてこないように思う。カンボジア復興のために我々は何をなすべきか、自問自答を重ねたものの、明確な答えが見つからないまま帰国の途についた。

その後、孜孜の会は、二校目の米百俵スクールをプノンペンの西、車で六時間の地に、来春開校することを決めた。一校目の開校式に持参した数十台のピアノに優るとも劣らずの教材を探し求めることが、当面の仕事となつていく。

同期の面々と再びカンボジアを訪問し、シリブット王子との再面談が実現することを祈るのみである。ちなみに、六十才は耳順、七十才は従心とあるが、余命の程は誰にも分からない。

真西に沈む太陽を眺めつつ。彼岸。

安藤 一夫



春分の日、秋分の日を「お中日」、その前後三日を合わせた七日間を、それぞれ春の彼岸、秋の彼岸といっています。

お寺では「彼岸会」という法要が行われ、檀信徒がお参りをします。

この「彼岸会」の法要は、日本にだけ伝わる美しい風習で、インドや中国にはないそうです。

「彼岸」は「到彼岸」を略したことばです。迷いの此岸を去って、悟りの彼岸に到るといのが、本来の意味。サンスクリット語では「パー

ラミター」といい、「波羅蜜多」と音訳しています。

「波羅蜜多」といえば、日本人にもっともよく知られた経典『般若心経』の正しい経典名は『般若波羅蜜多心経』です。「般若」は、サンスクリット語の「ブラジュニヤ」の音訳語で「智慧」の意味ですから、般若心経は「智慧をもって、悟りの向こう岸(彼岸)に渡るための、心のあり方を教えたお経」と理解したらよいと思います。

般若といえば、ご存知の「般若湯」があります。お坊さんの間で使われる「酒」の通称です。本来、仏教ではお釈

迦さまが制定した五戒のひとつに、不飲酒戒(酒を飲まない)があります。これは基本的な戒めですが、ほんとうは飲酒は禁止ですが、日本のお坊さんはとても寛容です。私も龍弘和尚さんと、不飲酒戒を気にせず、折々に楽しく般若湯をいたたいております。

なにしろ「智慧のつくお湯、酒」ではありません。般若湯です」というわけですね。お寺の奥様も、角をはやした「般若面」はなさいません。ここに「智慧のつくお湯」をいっしょに楽しめられます。もっとも、あの怖そうな鬼

女の能面は「般若坊」という人がつくったのが由来といえますから、「智慧のお面」ではありません。

ところで、なぜ彼岸会が、春分の日と秋分の日に行われるのでしょうか。この春分の日、秋分の日には太陽が真西に沈みます。その真西の方角には、阿弥陀仏の西方極楽浄土があるといわれています。

そこで、真西に沈む太陽を眺めつつ、お浄土にいるご先祖様を追憶しようと、春と秋のお彼岸の行事が行われるようになった、ということです。

国際菩薩道の御願い

菩薩道

円福友の会

今や時代は国際世界となり、新潟大学に三百五十名余のアジアの留学生が学んでおります。「円福友の会」は信州大学の留学生に本を

贈る会をすすめて参りましたが、この度、新潟大学並びに長岡技術科学大学・長岡短期大学・長岡造形大学などの留学生に、新潟県曹洞宗寺院の御協賛を得て、留学生の希望図書一人一万円相当を送ることに、発起人各位の御賛同を拝しませたことは有難さ極みであり

ます。何卒よろしく御願い申し上げます。合掌

円福友の会 藤本幸邦九拝
発起人

- 金子弘久 桜井統一
- 近藤龍弘 保高順彦
- 田崎寛道 小西慧道
- 鷲見芳正 室賀静英
- 楨 道信 高橋文英
- 金安昭英 佐藤正樹

郵便振替 00670-3-2174 安善寺

お別れ

(平成十二年六月末〜八月末日)

山口好子様 六月廿五日寂
長岡市地藏町

田中貞雄様 六月廿五日寂
長岡市柏町

小杉栄太郎様 七月七日寂
長岡市豊町

先崎 允様 七月廿八日寂
長岡市沢田町

河村幸一様 七月三十一日寂
長岡市中島

竹田行雄様 八月五日寂
長岡市新保

日山 重様 八月十八日寂
長岡市新保

増田義一郎様 八月廿三日寂
神奈川県相模原市

佐藤キヨ様 八月廿七日寂
長岡市古正寺町

なお、小杉栄太郎様は長岡市最高齢の百七歳でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

ペコ大蔵日記

パートⅡ

お姉ちゃんは結婚したけど



クーラーの苦手な私にとつて、今年の夏ほど辛かったことはありません。いくらお寺が広くとも、どこを歩いても床暖房の上を歩いているような日々でした。

お姉ちゃんが結婚して、どんなに淋しくなるだろうと思っていたのに、良くしたもので高校生のお兄ちゃんが、学校から帰ると「ペコは？」と、私に何かと話しかけてくれるのです。

先日、お母さんが「ここに入れておいた削節知らない？」と、誰とはなしに聞きながら探していました。それはとつくに、私のお腹に入ってしまったのも知らずに…。

そのお兄ちゃんは、私の好物のかつ節ご飯をよく作ってくれます。作り終わ



この前、大変なことがありました。少し風の強い日、直径五センチ、長さ一メートルくらいの樺の枯枝が、貸してある駐車場に止めてある車の後部ガラスの上を直撃。ガラスが粉々に割れてしまいました。

新春号へのお便りをお待ちしております

季刊誌への投稿、お便りをお待ちしております。また、季刊誌に関するご意見、ご感想、あるいは、こんな企画をとりあげてほしいなどのご希望をぜひお寄せください。

〒940-0052
長岡市神田町1-4-10
蔵王山 安善寺 近藤 龍弘宛
FAX.0258-32-2870
E-mail:vc2r-kndu@asahi-net.or.jp

10月22日(日)は
新潟県知事選挙です。

あなたの大切な一票。
棄権しないで必ず投票しましょう!

野焼きも禁止され、この秋の膨大な落葉もどうなるのでしょうか。落葉の布団なんて呑気なことも言つたらなくなりそうです。

編集 雑感

今年は本当に暑い夏でした。子供にはお寺の前にある川西やさんでキャンデーを買って帰る。そんな感覚でお寺にやってきました。あまり構えず、手を合わせるのがごく自然に身についてゆけば、それでいいかなと思つています。

そんな暑いなか、お盆には安善寺の本堂とお墓に、今年も大勢の人たちがお参りにこられていました。蝉時雨の中で一家揃つてご先祖様を迎え、供養し、お送りするという慣わしのなかに、家族、兄弟、親戚の絆が知らず知らず醸成されてゆくものなのでしょう。

子供たちも八月十三日とはそういうもの、そして、帰りにはお寺の前にある川西やさんでキャンデーを買って帰る。そんな感覚でお寺にやってきました。あまり構えず、手を合わせるのがごく自然に身についてゆけば、それでいいかなと思つています。

この紙面の編集会議でも、「もつと若い人と、いかに関わっていくか」というテーマがありますが、読者の皆様からも、よい知恵をお願いします。若い人との接点を見つげようとの話の中で、少年野球大会の決勝戦を観ておられた和尚様が、「そういうえば、高橋さんのチームが優勝したんですよ。その息子さんに何か書いてもらいましょう」という、とんでもないことになつてしまいました。とにかく書け、ということ、中味はともかく、親の窮状をみかねて救ってくれた息子に感謝。

第十三号、新年号は平成十三年一月一日(月)発刊予定です。

「親子は一世、夫婦は二世」……夫婦になることを「二世(現世と来世)の契り」という。この世ばかりでなしに来世までも心が変わらぬ契りを結ぶこと。親子の関係は現世限りのものとして「親子は一世」という。